

12月14日(水) 本年度第22回(通算2614回) 12時30分～ 釧路プリンスホテル

『地域活性化について』

担当/社会奉仕委員会

☆お客様と来訪ロータリアン

・中村茂樹様 (北海道銀行執行役員釧路支店長)

☆メイクアップ

11月25日・26日 足立功一君

(第40回ロータリー研究会実行委員会)

☆出席報告【会員総数66名 免除11名 出席計算に用いた会員数66名】  
次週の報告と致します

☆ニコニコ献金 (今年度累計 401,000円)

- ・北海道銀行釧路支店、中村支店長よろしくお願ひします。能登信孝君、田中和紀君、平田康典君
- ・平田委員長、本日宜しくお願ひします 石井東洋彦君
- ・良き事があつたので 迫田 武君

☆会長挨拶  
《能登会長》



12月に入り寒い日々が続いております。当クラブの上期例会も来週の家族忘年会と残すところ2回となりました。

先週の年次総会で、私のミスで不手際ありましたことにお詫び申し上げます。

今月は家族月間になっております。国際ロータリー、カルヤン・バネルジー会長は会長メッセージの中で、「万事は家族から始まり、私たちが行う奉仕すべて、また世界で成し遂げたいと望むことのすべての出発点は、家族にあります」と言っています。また今月のロータリーの友で配偶者や子供たちを奉仕プロジェクトに参加させ、家族も共に出席する例会を企画するを推奨するとあります。当クラブは来週の家族忘年会、ひな祭り例会、野遊会と3回企画しております。

今日のプログラムは「地域活性化について」北海道銀行執行役員釧路支店長、中村様をお向かいして、専門的分野から釧路の経済にどの様にすれば活性化が出来るかお話をさせていただければ考えております。宜しくお願ひ申し上げ会長挨拶とさせていただきます。

☆幹事報告  
《田中幹事》



- ①、各クラブより例会案内が届いております。回覧させていただきます。
- ②、島田利明君が上期終了をもって退会することとなりました。
- ③、昨日の釧新に掲載されておりましたが、12月8日に能登会長と幹事の私とで社協に行きまして清水会長に足立顕彰記念障がい者スポーツ基金として、20万円の助成金を贈呈してまいりました。このように、感謝も頂いてまいりました。
- ④、オンツーバンコク委員会より、タイ国におけるバンコク国際大会参加の願ひがきております。一応の締め切りは12月17日となっております。登録料は195ドル、3月1日までの支払い期日となっております。又、他の旅行会社を利用して頂いても構わないとのこと。



奉仕プロジェクト部門



講師  
中村茂樹様  
北海道銀行執行役員釧路支店長



理事  
石井東洋彦君



社会奉仕委員長  
平田康典君

「地域資源の有効活用と活性化」

1. 地域活性化とは

「人口減少等に伴う地域経済の疲弊に歯止めをかけ、更には拡大させることを目的とし、地域の様々な資源を活用した取り組み」のことで定義ができるのではないのでしょうか。

2. 地域経済疲弊の原因

●人口減少に伴う消費減少

人口減少は少子化や、雇用の場である企業の倒産、規模縮小、撤退等に伴い新たな雇用の場を求め域外への人口流出や、進学等が考えられる。

平成22年度の国税調査によると、釧路市の人口181,206名と道内4位の規模です。平成17年度の国税調査と比較し9,272人（減少率4,9%）の減少で、減少した市町村では道内3番目に多い減少数となっています。

平成8年から平成18年の少し長いスパンで人口と雇用の場について検証して見ることとします。

資料1. を見てください。この期間の釧路市（阿寒町、音別町含む）の人口推移をみると世帯数が6,712世帯増加（核家族化現象）しているにもかかわらず、人口は13,726人減少しています。一方雇用の場は、事業者数は3,154事業所が減少し、従業員数は22,799人減少しています。事業所の減少に伴い新たな雇用の場を求めて人口が他の地域に流出したといえるのではないのでしょうか。

●観光客減少に伴う消費減少

平成22年度の釧路管内の観光入込客数572万人、うち道内客387万人、道外客185万人です。またうち日帰り客439万人、宿泊客133万人（うち外国人は63千人）です。これを釧路管内市町村のデータがそろそろ平成11年度と比較しますと、観光入込客数▲27%、うち道内客▲15%、道外客▲44%減少しています。またうち日帰り客▲22%、宿泊客▲41%（うち外国人34%）減少しています。

道外観光客の減少が顕著ですが、これは来道者の95%が航空機を利用していることから、機材の小型化による輸送量の減少、割高な空運賃が影響しています。因みに釧路空港の平成22年度の旅客数は64万人でピーク時より2割以上減少しています。

●その他に景気停滞に伴う公共工事の減少など売上の減少や、水産や石炭などの天然資源の減少も釧路管内の経済が疲弊している原因です。

3. 活性化の方法

地域を活性化させるためには、地域資源の活用がキーワードになりますが、代表的な地域資源は「食関連（食材や食文化）」「地場産業」「自然環境」などがあげられますが、これらを実際に取り組み推進する「人材」も最重要資源の一つといえます。

しかし、具体策を検証する前にまず釧路・根室地域の産業構造を理解する必要があると思います。ここで、北海道開発局から平成17年度北海道内地域間産業関連表が公表されています。本日は一部を抜粋してきましたので資料2から4をご覧ください。

資料2「表1. 地域別生産額の推移」ですが釧路・根室地区の生産額稼24,859億円で、道内全体の生産額の7.3%を占めています。生産額の構成比は、一次産業10.7%、二次産業32.3%、三次産業57%です。

資料3「表3-1, 一2,」をご覧ください。各地域別の域際収支を見ますと道内・道外域際収支では「石油・石炭製品」「電力」「商業」などが大きく支出超となり1,056億円の赤字ですが、道外域際収支は「とちく・肉・酪農品」460億円、「水産食料品」1,269億円の黒字が貢献し全体では323億円の黒字です。

「商業」は地域外の企業に圧倒されていますが、釧路・根室管内の強みである一次産業の「酪農」「漁業」、二次産業の「水産食料品」、三次産業の「観光等」をさらに磨きあげることで、トータルの収支を改善することが可能だと思います。

このことを、理解したうえで以下のキーワードで地域の活性化を図る必要があります。

- 外貨獲得(域際収支を黒字にする)
- 産業振興(企業誘致、食糧基地としての農業・漁業等の生産強化、六次産業化、ブランド化)
- 交流人口の増加(観光・イベントの創出・強化、長期・短期移住)
- 地域の知名度向上(同上)
- 住まう人のマインド向上(誇り・豊かさ=幸福度・自信)

#### 4. 地域資源を知る

次にどのような資源を活用するのかといいますと、どの市町村にも地域資源は存在していますが、国立公園等地域住民がすでに資源と認識しているものと、あっても気づいていないものも沢山あります。

資料5.をご覧ください。財団法人北海道市町村振興協会の、地域資源を生かした地域活性化策に関する調査研究会が平成20年2月に発表した報告書「地域資源の分類」です。今後われわれが、地域活性化を取り組む場合の基礎資料に活用できると思います。

#### 5. 道内における地域活性化にむけた取り組み事例

当行では道内における取り組み事例を最近まとめました。お手元の資料6と7をご覧ください。まず、N01.の一次産品をブランド化し、外貨を稼ぐ例として有名なのは商標登録を活用した「夕張メロン」「大正メークイーン」「鶴川ししゃも」などです。釧路・根室管内でも「釧路ししゃも」「シソ商品(白糠)」「エゾシカ肉・加工品」などもあります。

N07の6次産業化とブランド化による成功例として池田町の「十勝ワイン」は有名ですね。6次産業化とは一次産業の農業・漁業産品を、二次産業の加工・生産により商品化し、三次産業の流通・小売まで一気通貫で手掛けることで付加価値を高めてより多くの外貨を稼ぐことです。すなわち「一次+二次+三次=6次産業化」といわれています。

#### 6. 推進主体

発案・着手の段階では民間または官が主体になりますが、推進の過程では官民連携となるケースが多いようです。

#### 7. 取り組み地域

取り組みの地域としては各市町村単位が多いようですが、広域連携、道内全域による連携の事例もあります。

事例N02.のリクルートじゃらんヒロ中田氏の発案による企画型のご当地グルメ「新・ご当地グルメ」が有名です。それぞれのご当地グルメは各市町村単位ですが、グルメグランプリの企画などにより、開発した地域の広域連携にもなっています。さらには、B級グルメとして全国展開もされており、地域の知名度アップにより観光産業として、そして地元食材を活用した食の提供としても外貨を稼ぐなど地域に大いに貢献しています。

また、事例N010.のとおり北海道庁と北海道経済連合などによる総合特区構想「北海道フード・コンプレックス国際戦略総合特区」を9月末に国に事業申請をしています。食関連産業の集積と食に関する研究開発・製品化などで農水産物の付加価値を高め、国内外への販路拡大につなげることを目的としています。まさに、官民一体の道内全域で連携し、国の特区認定を受け6次産業化を図り外貨を稼ごうという試みです。

## 8. 釧路の可能性

さきほど、活性化のところでも触れましたが、釧路・根室管内は一次産業の「酪農」「漁業」二次産業の「水産食料品」、三次産業の「観光等」をさらに磨きあげることが大切だと述べましたが、まず活用できる資源を沢山探し出し、これらを複合的に活用し、より高い付加価値をつけて外貨を稼ぐことが肝要です。さらに、官民一体となり、または釧路・根室管内一体となった取り組みも絡めていく必要があると思います。

一次産業酪農の牛乳についてですが、おいしい牛乳をつくり他との差別化を図るべく「安全・安心・美味しい」をキーワードに販売する必要があります。たとえば、日本で流通している牛乳の多くは殺菌温度135～150℃、殺菌時間1～4秒の殺菌超高温瞬間殺菌法(UHT法)ですが、殺菌温度が低く、殺菌時間が短い方が、もとの生乳により近く本来の風味があるとされています。(株)べつつかい乳業興社では殺菌温度は80℃、殺菌時間は15秒間殺菌の高温短時間殺菌法(HTST法)で殺菌しており大変おいしいと思います。差別化を図ることで売り上げを伸ばすことは可能です。因みに高温殺菌の牛乳は、海外では加工乳と分類されます。

漁業は、皆様ご存知のとおり年々水揚げ高が減少している傾向にあり、相場にも大きく影響され不安定ですが、やはり他地域や海外との差別化を大いに図る必要があります。酪農と同じくキーワードは「安全・安心・美味しい」ことだと思います。釧路・根室管内には時鮭、秋鮭、秋刀魚、シシャモ、昆布、カキなどなど沢山の美味しい資源があります。生食用に販売するにしても、加工製品にするにしても鮮度が大切ですが、(株)昭和冷凍プラント様の「窒素氷」、(株)ニッコー様の「シルク氷」などの技術もあり、全国的に大変注目されています。生食用のニーズもありますが、他地域へ原料供給している分を極力地域内で加工し、かつ販売ルートも開拓し6次産業化を図っていくことが大切だと思います。

三次産業の観光ですが、従来から皆様が認識している観光地、名所等を見るだけの観光では人は呼べません。観光の形態が、エージェントが主体となった団体旅行から個人・夫婦・家族・小グループの旅行が多くなり、それぞれのニーズが多様化してきているからです。今後観光をより強化すべきキーワードを説明したいと思います。まずは、交流人口(流入人口)の増加を図ることです。観光・イベントの強化ですが、管内の旅行業者は、アウトバンドからインバンドに力をシフトする必要があります。そして、域内の宿泊客を増やすこと、域内で連泊させる努力が必要です。そのためにも以下のことを検討していくことが大切です。

- 年間をとおして(四季折々)楽しめる、新たな観光資源・イベントを企画・発掘(地元の方が認識していないもの)
- 宿泊施設のレベルアップ(接客、食事、施設)
- 割高な航空運賃の是正

さらに交流(流入)人口を増加させるためには、短期・長期間の移住にも着目する必要があります。今年「ちょっと暮らし」で釧路市は道内第一位となりました。ちなみに、全道の今年4月から9月までの実績は、利用者数は1,195人(前年比290人増)、滞在日数は31,568日(同3698日増)、うち釧路市は利用者数112人、滞在日数4,336日とまだまだ伸ばせると思います。先ほど説明しました観光・イベントがレベルアップすると、道内でも格段に冷涼なこの地区は避暑地として大いに注目されることは間違いないと思います。

また、スポーツの練習地としてもマラソン、柔道、野球などで利用されていますが、温暖化の影響から冷涼なこの地区での夏場の練習はスポーツ選手にとって最適であり、この分野での成長も大いに期待できます。

地域の活性化のための事業化は軌道に乗るまでに時間がかかります。業界を超えて、さらには広域での連携も必要性です。このことは、釧路の方々が非常に苦手としていることだと思います。一番の大切な資源は、これらのことを、発案し、検討し、事業化し、運営していく「人財」なのです。ですから、まずは皆様の苦手意識の改善、マインドの改善・向上が必要なのだと思います。

## 9. 金融機関の役割

われわれも地域の方と一緒に活性化のお手伝いをする必要性を感じ、共存共栄のための行動を始めています。従来どおりお金も出しますが、「知恵」そして「汗」を出すことも大切だと考えています。地域活性化のために共にがんばりましょう。

ご静聴有り難うございました。